# Ⅰ章

# 総括研究報告

厚生労働科学研究費補助金
（地球規模保健課題解決のための行政施策に関する研究事業）
総括研究報告書

# 「国際会議で効果的な介入を行うための戦略的・効果的な介入手法の確立に資する研究」（20BA1002）

研究代表者　　磯　博康　　国立国際医療研究センター　国際医療協力局
グローバルヘルス政策研究センター　センター長

研究要旨

日本の保健分野の国際協力は、G8 洞爺湖サミット以来、一貫して保健システムの強化や Universal Health Coverage の主流化を先導してきたことが国際的に高い評価を得ており、我が国の国際保健外交を牽引する国内関係者や専門家の経験が積み重ねられてきている。しかしながら、それらの土台となる知見や国際会議の経験は、必ずしも系統的に分析されて共有可能な形でとりまとめられたり、若手の国際保健人材育成に活用されたりするには至っていない。

本研究は、グローバルヘルスの今日的課題に関する経緯や、日本及び各国政府の動向を分析したうえで、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を主張するための手法開発と若手や中堅実務者向けの効果的な教育プログラムの確立を目的としている。今年度は、米国ジョージタウン大学外交ケーススタディ教材を用いてグローバルヘルス外交の主要課題の教材化について輪読会の形式で検討し、各課題について日本の強みと課題を分析した。保健課題は「家族計画・人口問題」「官民連携」「新興感染症・健康危機」「知的財産、医薬品へのアクセス」「国際保健における支援の枠組み」を取り扱った。

また本年度 12 月に開催されたグローバルヘルス外交ワークショップでは、輪読会および 10 月の対面型ワークショップでの議論を踏まえ、日本のみならず、タイ政府から該当領域の専門家を招聘し、講義と質疑応答および対面式の演習を行った。講義の内容は、グローバルヘルス外交の流れ、人材育成、国際会議での発言様式、介入への準備、発言原稿の形成、交渉の原則、日本の国連での介入の実例と課題、公衆衛生上の交渉課題、多様な機関とのパートナーシップと多岐にわたり、さらに対面式演習を行った。

今年度実施した研究から得られた知見は、今後の教材開発や教育プログラム策定に活かし、我が国が国際的な議論に戦略的に介入して日本の立場を主張し、国益及び国際的な平和を守る人材の育成に貢献するものである。

研究代表者：
磯　博康　　国立国際医療研究センター
グローバルヘルス政策研究センター
センター長

研究分担者：
中谷　比呂樹　国立国際医療研究センター　グローバルヘルス人材戦略センター
センター長
梅田　珠実　国立国際医療研究センター
グローバルヘルス政策研究センター
客員研究員
明石　秀親　国立国際医療研究センター
国際医療協力局　運営企画部長
勝間　靖　国立国際医療研究センター
グローバルヘルス政策研究センター
研究科長
坂元　晴香　東京女子医科大学
国際環境熱帯医学講座　准教授
細澤　麻里子　国立国際医療研究センター　グローバルヘルス政策研究センター
主任研究員
石塚　彩　国立国際医療研究センター
グローバルヘルス政策研究センター
特任研究員（2021 年 8 月末まで）
齋藤　英子　国立国際医療研究センター
グローバルヘルス政策研究センター
上級研究員

A．研究目的

日本の保健分野の国際協力は、G8 洞爺湖サミット以来、一貫して保健システム強化や Universal Health Coverage の主流化を先導してきたことが国際的に高い評価を得ており、2019 年日本は、国連において初めて開催された UHC ハイレベル会合にて、我が国が国際保健外交を牽引する姿勢を国際社会に示した。また、同年日本は G20 議長国を務め、UHC、高齢化への対応、健康危機・Antimicrobial Resistance（薬剤耐性）といった国際保健の重要施策の方向性について合意を形成したほか、Tokyo International Conference on African Development においてもそのプレゼンスを発揮するなど、グローバルヘルス外交における国内関係者や専門家の経験を積み重ねてきた。

しかしながら、それらの土台となる知見や国際会議の経験は、必ずしも系統的に分析されて共有可能な形でとりまとめられたり、若手の国際保健人材育成に活用されたりするには至っていない。

本研究は、World Health Organization（世界保健機関）主要会合並びに総会を中心に、グローバルヘルスの今日的課題に関する経緯や、日本及び各国政府の動向を分析したうえで、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を主張するための手法開発と効果的な教育プログラムの確立を目的とする。

具体的には、WHO 主要会合並びに総会における討議内容や決議から、日本の介入が効果的な分野（強み）と介入しにくい分野（課題）を実証的に分析するとともに、各国のアプローチとの比較を行う（初年度）。その結果を踏まえ、WHO 会議において各国の対立が不可避なテーマ等についてケーススタディを行い、日本の立場を効果的に主張するための手法を開発する（2 年目）。さらに、諸外国のグローバルヘルス外交にかかる政策研究機関の動向や、それらが有する研修プログラムの情報を収集・分析し、国

際保健人材育成のためのグローバルヘルス外交教材を開発し、研修プログラムを確立する（3 年目）。

本研究の特色・独創的な点は、長年にわたり公衆衛生分野で国内外の人材育成をリードし、我が国の国際保健の政策研究拠点を担う研究代表者が、WHO 執行理事会議長の経験者をはじめ、実際に国際会議での交渉経験をもつ分担研究者をそろえ、国際会議のリアルワールドで現実に行われている様々な介入や交渉の情報を入手し活用しつつ、戦略的な分析と実践的な手法開発を行うことである。

B. 研究方法

本研究は 3 年計画で、WHO 主要会合並びに総会を中心に、グローバルヘルスの今日的課題に関する経緯や、日本及び各国政府の動向を分析し、我が国が国際的な議論に戦略的に介入し、日本の立場を主張するための介入手法、グローバルヘルス外交教材、効果的な教育プログラムを開発する。その際、厚生労働省、外務省、国際協力機構、海外のグローバルヘルス政策実務機関、研究機関等と連携することで、より現実的で効果的な介入並びに有用な教材・研修プログラムの開発につなげる。

上記目的を視野に令和 3 年度（次年度）は、ジョージタウン大学外交ケーススタディ教材の中からグローバルヘルス外交の主要課題に関わる 7 ケースを用いて輪読会を行った。第 1 回目でケーススタディ教材の一般的な利用方法について学習した後に、前半は各ケースについて輪読を行い、後半は前半で取り上げた課題について日本の事例について検討し、日本の強みと課題を分析した。参加対象者は、グローバルヘルス外交に関わる実務家、行政官（厚生労働省や外務省）そしてアカデミアの若手からベテランまでとした。

さらに、令和 3 年 12 月に開催されたグローバルヘルス外交ワークショップでは、輪読会および令和 3 年 10 月の対面型ワークショップでの議論を踏まえ、国際会議で効果的な介入を行うための実践的なスキル習得のために、日本のみならず、タイ政府から該当領域の専門家を招聘し、講義と質疑応答および模擬世界保健総会方式で介入の演習を実施し、架空の議題をテーマに、決議案を含む会議文書の読解、対処方針の検討、交渉と会議での発言を、ロールプレイを通じて演習を行った。

（倫理面への配慮）

本研究は、人を対象とした研究ではないことから倫理審査の対象外である。

C．研究結果

ケーススタディ輪読会では、米国ジョージタウン大学外交ケーススタディ教材を用いたグローバルヘルス外交の主要課題の中から、保健課題として「家族計画・人口問題」「官民連携」「新興感染症・健康危機」「知的財産、医薬品へのアクセス」「国際保健における支援の枠組み」を取り扱った。分析の結果、課題共通の日本のグローバルヘルス外交の強みとして、これまでの国際保健課題への関与を通して培ってきた実績と信頼がある、国際保健課題解決に活用できるような技術や政策実績がある、相手国での人材育成を含めた技術移転を行っている、国際保健課題について省庁横断的に協議するプラットフォームが形成されてきていることが挙げられた。課題としては今後日本が保

有する技術や政策実績を国際保健課題の解決に活用していくにあたっては、相手国の需要や文化的背景を踏まえた持続可能な形での支援の提供、民間企業への国際保健市場への参入プロセスの支援などを通じた官民連携の促進、国際機関での規範設定の場への戦略的な人材拠出、政策モニタリングを通した国内外の関係者や国民の共通理解を醸成していく必要性があげられた。今後さらに検討を加えた上で日本におけるグローバルヘルス外交の教本化に役立てていく。本年度は、追加的にジュネーブ国際・開発研究大学院が出版した「A GUIDE TO GLOBAL HEALTH DIPLOMACY: Better health – improved global solidarity – more equity」を教材化するための検討を行い、来年度の教材作成のプロセスを整備した。

国際保健外交ワークショップでは、国際保健外交やガバナンスを理解するために、日本とタイの国際保健外交史の講義の後、世界保健総会（WHA）や主要関連会合における決議作成プロセスに関する講義を行った。また、国益の主張と国際益との調和の難しさを理解するために、交渉術に関するノウハウの講義、過去の主要保健議題に基づくケーススタディに関するオンライン講義を実施した。

対面式演習では、世界保健総会（WHA）や主要関連会合における決議作成プロセスに関する概要説明の後、実践的なスキル習得のために、模擬 WHA 方式で介入の演習を行った。具体的には、本ロールプレイ演習のために用意した WHO 執行理事会における架空の議題をテーマに、決議案を含む会議文書の読解、対処方針の検討、他国との交渉、会議での発言などを、一連のロールプレイを通じて、各国の意見が対立する中、どのように自国の主張を行うかという実践的な演習を行った。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策として、オンラインでの講義と対面での演習というハイブリッド形式でのワークショップ実施を試みた。対面形式での演習を取ったことにより、参加者間および参加者と講師のやりとりが積極的に行われ、参加者からの終了時評価アンケートにおいても、活発に参加できた、細かいニュアンスを学ぶことができた、という意見が大多数であった。本ワークショップのような対面でのロールプレイ演習は、国際会議での暗黙知を共有するために効果的な方法であり、今後も継続して毎年実施していくことが望ましい。

D. 健康危険情報

該当なし

E.研究発表

1．論文発表

該当なし

2．学会発表

該当なし

F. 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1．特許取得

該当なし

2．実用新案登録

該当なし

3．その他

該当なし

参考資料

該当なし